

## 今月のことば

太陽の光は  
大地に当たって  
そこを暖ため  
仏さまの光は  
煩惱に当たって  
そこではたらく

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師

こいけひであき  
小池秀章

ある暖かい日、急に天気が変わり、「ひょう」が降りました。ちなみに、5ミリ以上が「ひょう」で、5ミリ未満が「あられ」です。こんな暖かい日に、「ひょう」が降るとは不思議なことだと思い調べてみると、「ひょう」は、地表の暖かい空気と上空の冷たい空気の温度差が大きくなる春(5月頃)と秋(10月頃)に、最も多く降ることが分かりました。

その日の気温は25℃、上空には、マイナス15℃の寒気があり、その温度差は40℃。地表の空気が上昇し、急に冷やされ、氷の粒(「ひょう」)になったようです。

ここで疑問が一つ湧きました。「なぜ、太陽に近い上空の空気が、太陽より遠い地表の空気より冷たいのか?」。これも調べてみると、太陽の光が空気を通り抜ける時に、空気を暖める効果は少して、地面に当たり、地面を暖めることによって、地表の空気が暖まるからだそうです。

仏さまの光は、あらゆるところに至り届きます。そして、私の煩惱にぶち当たり、そこで、はたらくくださるのです。仏さまの智慧の光が煩惱に当たった時、煩惱に振り回されていることに気づかれます。気づかされたからといって、煩惱が無くなるわけではありませんが、ただ煩惱に振り回されるだけの人生とは、違った人生が開けてきます。太陽の光が地面に当たり、暖めるように、仏さまの光は、私を育ててくださいます。

合掌